

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成 27 年 6 月 24 日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

「信頼」が重要か、「管理」が重要か

今年に入り、日本企業の中国でのビジネスが原因による会社倒産や巨額の損失計上が相次いで明らかになり、中国ビジネスの難しさが改めて問われています。

現地のビジネスは現地の人間に任せるべきだ、という考え方

中小企業が海外で事業を展開する際に、現地の事情に明るいパートナーと組んで行っていくケースが多くあります。むしろ中小企業にとっては、信頼出来る現地の人間と知り合ったことがきっかけで海外事業を展開するケースも少なくないと思われます。

そのため、筆者の周辺でも事業立上げ当初は信頼を重視し、「中国のビジネス習慣」として言われるままに事情を受入れているケースが散見されます。

中国での「監査報告書」は信用できない？

今年 4 月に民事再生法の適用を申請し事実上倒産した東証 1 部上場企業の江守 HD は、近年中国での取引が拡大した結果、グループ全体における中国での売上割合が増加していましたが、中国現地法人の中国人総経理による自身の親族企業との架空取引が発覚し、約 460 億円の特別損失を計上し、同時に債務超過に転落したことで上場廃止、民事再生法申請へと至りました。

現在、中国では中外合資企業を含む全ての外資系企業に対し、中国の会計事務所による法定年度監査を義務付けています。上述の江守 HD も毎年会計監査を受けていた筈ですが、筆者の中国での業務経験上、中国の会計事務所のクオリティーにはピンからキリまでのばらつきがあり、安い報酬を提示する事務所などは、会社が作成した財務諸表をただ承認しているだけ、というケースもあります。

従って、日本の親会社が現地法人の会計監査報告書の存在を以って、適正な監査が実施されている、とは片づけられないのが現状だと考えられます。

「信頼」も重要だが、同時に「管理」も重要である

中国事業の成功の為に現地スタッフを信頼し権限を持たせることが重要であると筆者も考えています。日本と中国ではビジネスのスピード感が違うので、日本を經由した承認・決済等を待っていると、成功のチャンスを掴みかねるケースもあるでしょう。

但し、現地を信頼して任せたとしても、中国ビジネスのリスク回避の為に、親会社は現地法人の会計データ等の「結果」を管理する必要があります。筆者は弊社がその為

に必要なアドバイス、サポート等を行うことが重要な使命であると常に認識し、お役に立てる様に心掛けています。